

【入学式・式辞】

R7. 4. 8 13:30～

校庭から見える蔵王の山々も少しずつ雪がとけ、春の装いを感じるようになりました。春とはいえ、まだまだ寒い日が続いていますが桜前線は確実に北上し、間もなく満開を迎えることでしょう。

本日、ここに本校同窓会会長 鈴木博幸 様 PTA 副会長 渡辺彰 様をはじめ、多くのご来賓、学校運営協議会の皆様、そして保護者の皆様にご臨席賜り、令和七年度の入学式を挙行できますこと、誠にうれしく思っております。

新入生みなさん、そして、保護者のみなさま、ご入学誠にありがとうございます。今年度の新入生は163名、5クラスです、本校は年々生徒数が増えている、山形市内はもちろん、全国でも稀な学校と言えます。2年前に校舎増築や改修工事も完了し、存分に教育活動ができる状態になっています。また、今年度は50周年という節目を迎えます。

今日から皆さんは山形市立第九中学校の生徒です。壇上から皆さんの表情を見ると、緊張感と共に、これから始まる新しい生活に胸を膨らませている様子が伝わってきます。

・どんな勉強をするのだろうか。 ・どんな毎日になるのだろうか。 ・どんな友達に出会うのだろうか。

新しい生活を切り拓いていくのは自分自身です。みなさんには、失敗を恐れず何事にも本気で取り組み、互いを思いやり、協力し合って、充実した3年間を送ってほしいと思います。みなさんの日々成長していく姿を見守っていくことをとても楽しみに思っています。

本校の教育目標は、「自主自律・創造・共栄」です。自主自律とは、自分で考え、自ら進んで行動できる生徒を目指すことです。創造とは、何事に対しても本気になって考え努力する生徒です。共栄とは、お互いを思い、大切に生活する生徒です。中学校生活の中で様々な活動に取り組みながら、そのような生徒になってほしいと願っています。また、本校には、生徒・教職員・保護者・地域の方々みんなの合い言葉が四つあります。玄関にある看板を見た人もいることでしょう。「あいさつの九中」・「合唱の九中」・「花に囲まれた九中」・「ボランティアの九中」この四つです。みなさんもこの合い言葉を大事にしてほしいと思います。

入学にあたり、私から新入生みなさんをお願いしたいことが2つあります。1つ目は「相談する力」をつけることです。これから生活していくなかでは、一人では解決できない問題や悩みに出会うこともあります。そんなときは絶対に一人で悩まず、家族や友達、先生方に遠慮なく相談してください。苦しいときはまわりに助けを求めて良いのです。相談することで、すぐに問題が解決しなくても、誰かに話すことで心が軽くなり、解決策が見えてくるかも知れません。自分とは違った考えをいってもらえることで、今まで気づかなかった道が開ける可能性もあります。自分の悩みを相談することは勇気のいることです。でも、ため込んでしまうと心が怪我をしてしまいます。心の怪我はなかなか治りません。困ったことがあったら、身近な誰かに相談するのは大切な力の一つです。2つ目は「センスオブワンダー」を持続けるということです。センスオブワンダーとは、不思議なことに感動したり、驚いたりする感性というように訳されています。花を見て、きれいだなと感じたり、動いている生きものをみて面白いな、不思議だなと思ったりする気持ちです。初めて体験したことや自分が好きなことをしているとき「ワクワクするな」と感じることで、勉強をしてわからないことがわかって嬉しくなる、これもセンスオブワンダーといって良いでしょう。この感性を忘れないで欲しいのです。人として大切なことです。それを持ち続けられる人は周りに優しくなれます。そして、強くもなれます。「困ったら相談する」「センスオブワンダーを持続ける」この2つがみなさんをお願いしたいことです。

さて、保護者の皆様、本日はお子様のご入学、誠にありがとうございます。これから三年間、大切なお子さまを中学校でお預かりし、教職員が協力して、一人ひとりの成長を支援してまいります。一人ひとりの生徒の限らない可能性を信じ、その力を最大限に伸ばしていけるように、全力を挙げて教育活動にあたっていきます。その

ためには学校と家庭の協力が欠かせません。保護者の皆様としっかりと手を取り合って、優しくたくましい生徒を育てていきたいと思っております。

最後にご来賓の皆様、この学校は地域の皆様に支えられている学校です。子どもは「家庭の宝、地域の未来」です。子どもたちの元気な姿が地域を元気にすると思っております。さらなるご支援・ご鞭撻を賜りますよう、お願いを申し上げ、式辞といたします。

令和7年4月8日 山形市立第九中学校 校長 土井 正路